

培った技術と経験力に

秋田職能
大 3科48人が修了

証書を受け取る修了生
(秋田職能短大)

大館市の秋田職業能力開発短期大学校(後藤康孝校長)で11日、2021年度修了式が行われ、2年間の専門課程を終えた3科48人が、ものづくりの知識や技術を培った学びを巣立った。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保護者の入場を1家族につき1人までとしたほか、席の間隔を1メートルなど対策した。コロナ禍前と同様に修了生、保護者、来賓らが一堂に会する形を取ったのは3年ぶり。19、20年度は各科の教室で修了証書授与式と式辞のみ行った。

修了生は生産技術科15人、電子情報技術科14人、住居環境科19人の計48人。後藤校長は一人一人に修了証書を手渡し、「皆さんは技術者として次の世代の中心的立場となつて、ふるさと、この国の新たな日常を支えていってほしい」と式辞を述べた。

送辞で、在校生を代表して学生自治会長の高杉康太さん(電子情報技術科)は「良いものを作ろうと努力する先輩方の姿を見て、授業では学ぶことができないものづくりの姿勢を学んだ。早く先輩方のように立派な作品や発表ができるよう、日々努力していく」



と述べた。

修了生代表の高野春佳さん(住居環境科)は「それぞれが新たな環境を迎えることに期待と不安を感じていると思うが、培ってきた技術と経験を力に困難を乗り越えていきたい。この学校で学んだことを誇りに、世界のために貢献できる人間になるよう精進していく」と答辞を述べた。席上、成績優秀者や大会な

どで活躍した修了生の表彰も行った。

被表彰者は次の通り。

▽校長表彰||佐々木佑輔(生産技術科)、佐藤佑樹(電子情報技術科)、中村優介(住居環境科)

▽特別成績優秀者||飯岡拓海(電子情報技術科)

▽総合制作実習の成果物に係る表彰||飯岡拓海(電子情報技術科)、西條裕貴(同)